



金屋町楽市

芸術文化学部地域連携プロジェクト

開催主旨

2009年、開城400年を迎える高岡市は、その歴史のはじめから金属の街であり、工芸の街です。前田藩という、日本文化を凝縮し、市民階級の台頭と共に新しい伝統を築いた安土桃山文化を継承する体制と地域にあって、高岡は常に特色ある産業と文化を形成し、北陸のみならず、日本にとっても重要な伝統産業拠点であり、文化拠点であり続けてきました。明治期に、生活の中で生まれ育まれたわが国の伝統芸術の特色を西洋に正しく紹介し、西洋芸術においても重要な歴史的の事件の一つである「ジャポニズム」を引き起こした林忠正を輩出した事も、高岡の歴史を見れば偶然のことではありません。

しかし、戦後、生活の変化、需要の変化に対応しきれず、日本全土の伝統産業拠点、伝統文化拠点が衰退していく中、高岡も例外ではありませんでした。

私たちは、そのような現状の中で、林忠正が残した時代と文化に対応する方法、教訓を現代的な解釈で再生させると共に、高岡のみならず、日本の同様な地域への刺激という意味も込めて、高い技術と優れた意匠を持つ工芸品が、生活と街の中へ回帰するために、そしてその中で育まれるように、これからの北陸と日本を支えるつくり手たちと共に、安土桃山時代の記憶をとどめた「楽市」を、高岡のふるさとである金屋町で開催することにしました。

概要

「金屋町楽市」は、江戸時代初期以来の町並みと銅器工芸の職を残す、高岡市金屋町全域を使って行う生活空間内展示です。ストリートマーケット、イベントを組み合わせ合わせた工芸×生活×産業が同居する初めてのゾーンミュージアムイベントです。地域、民間、アーティスト、職人が一体化することで、伝統産業活性化による文化拠点再整備を目指す事業です。

高岡出身の国際的プロデューサー、林忠正の提言を再生し、日本生活工芸の復興を図ることを目標に開催しました。

主な開催内容

● シンポジウム

実施日 : 平成20年10月24日(金)
会場 : 県高岡文化ホール
テーマ : 「林忠正にみる日本の工芸の未来」
基調講演 : 木々 康子(林忠正研究者)
パネルディスカッション
今泉 今右衛門(14代・陶芸家)
大樋 年雄(陶芸家)
緒方 慎一郎(クリエイティブディレクター)
隈 研吾(建築家)
中村 信喬(人形師)
武山 良三(金屋町楽市紹介)
伊東 順二(コーディネータ)
参加人数 : 約500人

● 金屋町楽市ゾーンミュージアム

実施日 : 平成20年10月25日(土)、26日(日)
実施会場 : メイン会場: 高岡市金屋町石畳通り周辺
通行量調査: 2日間で6,733人
作品展示・販売
出展者 : 92名
売り上げ : 1,376,991円

● 寄り合い: つくり手・つかい手・つなぎ手の交流

実施日 : 平成20年10月25日(土)夜
実施会場 : 高岡市金屋町: 宗泉寺・神妙寺
テーマとメインゲスト
宗泉寺 : 「職」技を通してもののあり方を談義
緒方 慎一郎、桐本 泰一、中村 信喬、柳原 正樹(水墨美術館副館長)、伊東 順二
神妙寺 : 「人」暮らしを通してもののあり方を談義
城谷 耕生、山本 和代子(山元醸造株式会社、郷土史研究家)、
黒田 昌吾(漆芸家・書家) 武山 良三(進行役)
参加者 : 62人

Symposium

「林忠正にみる日本の工芸の未来」



基調講演講師

木々 康子 氏
Yasuko Kigi
作家・林忠正研究者



パネラー

今泉 今右衛門 氏
Imaemon Imaizumi
陶芸家・第14代



パネラー

隈 研吾 氏
Kengo Kuma
金屋町楽市実行委員
建築家



パネラー

大樋 年雄 氏
Toshio Ohi
陶芸家



パネラー

中村 信喬 氏
Shinkyō Nakamura
人形師



パネラー

緒方 慎一郎 氏
Shinichiro Ogata
株式会社 SIMPLICITY
代表取締役/
クリエイティブディレクター



コーディネーター

伊東 順二
Junji Ito
金屋町楽市実行委員長
富山大学 芸術文化学部 教授



パネラー

武山 良三
Ryoza Takeyama
金屋町楽市実行副委員長
富山大学 芸術文化学部 教授

Zone Museum

工芸×生活×産業が同居する空間の再生



招待作家：

今泉 今右衛門
大樋 年雄
緒方 慎一郎
大澤 光民
中村 信喬
黒川 雅之
桐本 泰一
城谷 耕生
黒田 昌吾
鳥田 稔弘
畠山 耕治

富山大学芸術

文化学部教員：

小川 太郎
小堀 孝之
小松 研治
清水 克朗
高橋 誠一
武山 良三
内藤 裕孝
林 暁
丸谷 芳正
渡辺 雅志

富山大学芸術

文化学部学生：

(高岡短期大学部専攻科)

植埜 貴子
弓場 麻衣

北陸の作家：

〔金沢〕

青木 有理子
青山 恵
泉 玲奈
今城 晶子
魚津 悠
梅本 依里
大石 裕加奈
小曾川 瑠那
織田 光恵
霧林 舞美
北村 紗希
切中 優希子
金 奇兌
笹川 健一
須藤 真美子
新開 優子
外間 貴子
南本 竜太
藤生 真梨
マセド・マウリシオ
松田 明德
松永 慶
吉田 安喜
木瀬 浩詞
山口 京

監修：

相川 繁隆 (金沢卯辰山工芸工房)
野田 雄一 (富山ガラス工房)
高川 昭良 (高岡デザイン・工芸センター)

〔富山〕

池田 充章
泉 秀明
岩瀬 明子
大山 隆
梶原 朋子
金津 沙矢香
岸本 耕平
小島 有香子
小林 俊和
小柳津 周子
佐野 猛
佐野 曜子
豊岡 伸安
南 佳織
西山 雪
野口 知恵子
和田 修次郎

〔福井〕

市橋 人士
水上 竜太
杉原 半四郎
中野 智昭

〔高岡〕

内島 正雄
小杉 かん子
小林 綾花
源 謙次
斉藤 慎二
沢越 孝子
澤田 健勝
下尾 和彦
小路口 力恵
新宮 康幸
関崎 未仁
田中 孝明
中山 裕晃
畑 勝日佐
般若 泰樹
藤田 善啓
松本 善寛
村瀬 貴浩
鷲塚 貴紀

ほかの方々



開催にあたっては地元金屋町自治会の全面的な協力を得た



隈研吾氏デザインの展示用什器は地場産業の技術を活かし開発された



水ブロックを積み上げ茶席用の水屋を設営する学生スタッフ



工芸×生活×産業が同居する空間の再生を象徴する茶会



2箇所のお寺で寄り合いが行われゲストとの交流が図られた



倉庫に眠っていた木型が鋳物のまちの歴史を伝える展示になった

企業：

アクタス富山店
能作
高田製作所
竹中銅器
ナガエ

林忠正資料：

チューリップテレビ

お茶席：

工藤 泰子、小久保
瑛子（藪内流）

お休み処：

般若 陽子
（藤グループ）

弥栄節：

加藤 昌宏
（弥栄節保存会）

直売コーナー：

金屋学（主催）
金屋町まちづくり推進
協議会（共催）

展示什器協力：

三協立山アルミ
三芝硝材

統括：

伊東 順二、池上 留理子

空間構成：

隈研吾、宮澤一彦、佐々木倫子

街区計画：

貴志 雅樹、横山 天心

サイン計画：

武山 良三

学生リーダー：

渡部 智也

主催：

高岡楽座
富山大学芸術文化学部
金屋町自治会
高岡市
高岡市デザイン・工芸センター
高岡伝統産業青年会
高岡商工会議所
富山ガラス工房
金沢卯辰山工芸工房
隈研吾建築都市設計事務所

後援：

経済産業省中部経済産業局
富山県
社団法人富山県デザイン協会

協賛：

三協立山アルミ株式会社
三芝硝材株式会社
アクタス 富山店

事務局：

株式会社インサイト